

気候変動の影響への適応計画(閣議決定案)の概要

資料1-1

(気候変動の影響への適応を計画的かつ総合的に進めるため、政府として初の適応計画を策定するもの)

○IPCC第5次評価報告書によれば、温室効果ガスの削減を進めても世界の平均気温が上昇すると予測

○気候変動の影響に対処するためには、「適応」を進めることが必要

○平成27年3月に中央環境審議会が気候変動影響評価報告書を取りまとめ(意見具申)

○我が国の気候変動【現状】 年平均気温は100年あたり1.14℃上昇、日降水量100mm以上の日数が増加傾向

【将来予測】 厳しい温暖化対策をとった場合 : 平均1.1℃(0.5～1.7℃)上昇

温室効果ガスの排出量が非常に多い場合 : 平均4.4℃(3.4～5.4℃)上昇 ※20世紀末と21世紀末を比較

<基本的考え方(第1部)>

■目指すべき社会の姿

○気候変動の影響への適応策の推進により、当該影響による国民の生命、財産及び生活、経済、自然環境等への被害を最小化あるいは回避し、迅速に回復できる、安全・安心で持続可能な社会の構築

■基本戦略

(1) 政府施策への適応の組み込み

(2) 科学的知見の充実

(3) 気候リスク情報等の共有と提供を通じ
理解と協力の促進

(4) 地域での適応の推進

(5) 国際協力・貢献の推進

■対象期間

○21世紀末までの長期的な展望を意識しつつ、今後おおむね10年間における基本的方向を示す。

■基本的な進め方

○観測・監視や予測を行い、気候変動影響評価を実施し、その結果を踏まえ適応策の検討・実施を行い、進捗状況を把握し、必要に応じ見直す。このサイクルを繰り返し行う。

○おおむね5年程度を目途に気候変動影響評価を実施し、必要に応じて計画の見直しを行う。

<分野別施策(第2部)>

■農業、森林・林業、水産業

○影響: 高温による一等米比率の低下や、りんご等の着色不良等

○適応策: 水稻の高温耐性品種の開発・普及、果樹の優良着色系品種等への転換等

■水環境・水資源

○影響: 水温、水質の変化、無降水日数の増加や積雪量の減少による渇水の増加等

○適応策: 湖沼への流入負荷量低減対策の推進、渇水対応タイムラインの作成の促進等

■自然生態系

○影響: 気温上昇や融雪時期の早期化等による植生分布の変化、野生鳥獣分布拡大等

○適応策: モニタリングによる生態系と種の変化の把握、気候変動への順応性の高い健全な生態系の保全と回復等

■自然災害・沿岸域

○影響: 大雨や台風の増加による水害、土砂災害、高潮災害の頻発化・激甚化等

○適応策: 施設の着実な整備、設備の維持管理・更新、災害リスクを考慮したまちづくりの推進、ハザードマップや避難行動計画策定の推進等

■健康

○影響: 熱中症増加、感染症媒介動物分布可能域の拡大等

○適応策: 予防・対処法の普及啓発等

■産業・経済活動

○影響: 企業の生産活動、レジャーへの影響、保険損害増加等

○適応策: 官民連携による事業者における取組促進、適応技術の開発促進等

■国民生活・都市生活

○影響: インフラ・ライフラインへの被害等

○適応策: 物流、鉄道、港湾、空港、道路、水道インフラ、廃棄物処理施設、交通安全施設における防災機能の強化等

<基盤的・国際的施策(第3部)>

■観測・監視、調査・研究

○地上観測、船舶、航空機、衛星等の観測体制充実
○モデル技術やシミュレーション技術の高度化等

■気候リスク情報等の共有と提供

○気候変動適応情報にかかるプラットフォームの検討等

■地域での適応の推進

○地方公共団体における気候変動影響評価や適応計画策定を支援するモデル事業実施、得られた成果の他の地方公共団体への展開等

■国際的施策

○開発途上国への支援(気候変動影響評価や適応計画策定への協力等)

○アジア太平洋適応ネットワーク(APAN)等の国際ネットワークを通じた人材育成等への貢献等